

23 学校

【関連章第7章6】

事例2 「大学の研究室から出火した火災」

出火時分 3月 9時ごろ
 用途等 大学 耐火造 5/0 延 5,600 m²
 防火管理 該当選任あり 消防計画あり
 被害状況 建物部分焼 1棟 20 m²焼損
 概要

この火災は、大学の研究室から出火したものです。

出火原因は、研究室内の水槽に照明用として設置していた蛍光灯内の端子部分でトラッキング現象が発生し出火したものです。

大学の職員は、出勤し事務室に入ろうとしたところ、火災を知らせる放送が流れたことから、付近を確認すると、隣の研究棟から黒煙が上がっているのを発見したため、研究棟に駆け付け、棟内にいた学生に避難誘導をしています。また、自動火災報知設備の鳴動音で火災に気付いた別の職員は、建物前で黒煙を確認したため、自身の携帯電話で119番通報しています。研究室には施錠がされており、初期消火は実施できませんでした。

教訓等

この火災は、無人の研究室で出火しています。

大学の研究室では、長期間にわたり経過を確認する研究や作業が幅広く行われていることがあり、研究内容や使用する機器によっては、無人の状態でも継続して機器を使用することがしばしばあります。研究や実験で使用する機器は定期的に点検を行い、出火防止に努めましょう。

また、万が一の時には、教職員のみではなく、学生も消火設備の設置位置や取扱い方法を把握しておくことで被害の拡大を抑えられます。



写真 23-3 実験室の焼損状況

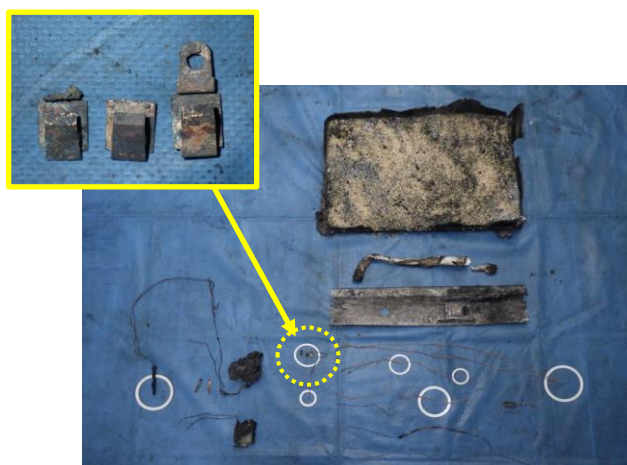


写真 23-4 焼損した水槽付近の状況